

自衛隊体育学校 オリンピックの成果を部隊精強化へ

平成27年元旦



山崎3尉2020東京競歩コースで快歩



山崎3尉

元旦競歩
平成27年、西暦2015年1月1日あり、自衛隊体育学校が2015年の元旦、神宮外苑絵画館20km競歩路コースに於いて第63回元旦競歩大会が開催された。この神宮外苑絵画館前は自衛隊にとって象徴的な場所だ。この場所こそ55年から72年まで自衛隊中央観閲式が行われた場所だ。その場所を一人の自衛官アスリートが歩いた。山崎勇喜3等陸尉、自衛隊体育学校競歩のパイオニアであり、日本競歩界の第一人者だ。この競歩コースは2020年東京オリンピック・パラリンピックでは使用される予定のコース（今大会は一周1350mであったが、オリンピックは2000mに拡張する予定でク時は2000mに拡張する予定であり、自衛隊体育学校が2015年のスタートを切るのにこれ以上ない場所だ。レースは山崎の専門外の20kmであったが、この種目日本記録保持者の鈴木雄介選手（富士通）らがいる中で1時間24分33秒の記録でゴール。後半の歩形がこれまで以上に進化しており、自身が持つ50kmでの日本記録更新は不可能ではないことを証明。山崎は今年の世界陸上への出場権がかかる4月の輪島での日本陸上50kmを念頭に、2月の神戸に果敢に挑戦していく。谷井と荒井に続き山崎も世界陸上代表に十分狙える位置にいることを確信させた。

米満選手ありがとう

稀代の名選手が引退表明



米満選手の引退



記者会見を行った米満2尉

1月29日東京代々木日本体育協会において米満達弘2等陸尉の引退会見が行われた。米満はロンドンオリンピックで金メダルを獲得し、2016年のリオ五輪を目指しトレーニングに励んできたが、2013年にレスリングのオリンピック種目除外から生き残りをかけた改革の中で、階級の見直しが行われ、米満の階級であるフリー66kg級が廃止され、新たに65kg級が導入された。米満にとって66kg級時代でも8〜9kgの減量があり、米満にとっては限界ギリギリだった。ここから1kgをさらに減らすというのは、極めて非常に厳しく、選手生命をかけた肉体改造を行わなければ不可能だった。だが、米満はロンドン大会直前に負傷した肋間神経痛が大会後も長引き、さらに足首を負傷するなど、肉体改造が進まないどころか、米満の強さの根底にあった体の柔らかさを失う状態の中で、米満は文字通りもがき苦しんだ。だが、2014年12月、米満はリオ・オリンピック

出場に重要な影響を及ぼす全日本選手権も欠場することとなり、引退を決意した。「私に関わって頂いたすべての方に感謝申し上げます」という米満らしい言葉ではじまった会見にはテレビ6社を含む40社以上の報道関係者が集まり、稀代の名選手の引退を見届けようとする熱気とともに、米満に対する労いの思いに溢れ「ご苦労様」「ありがとう」といった言葉が何度も記者の口から発せられ、会見の最後には日本レスリング協会女性職員から花束を贈呈されるなど独特の雰囲気にも包まれた。今後、米満は将来の指導者となるべく海外留学を希望しており、各方面で米満の海外留学への道を開くべく調整が始まっている。また、引退する米満に対する期待はスポーツ界でも高く、1月19日には日本のスポーツ行政を執行する独立行政法人日本スポーツ振興センターのアンバサダーに河野一郎理事長から任命され、2020東京に向け日本政府が標榜するスポーツ立国戦略推進の一役を担うことになった。



河野理事長よりアンバサダーに任命された米満2尉